

2. 浸水発生の仕組み

浸水には内水はん濫と、洪水（外水はん濫）があります。

内水はん濫



下水道施設や水路などの排水能力を上回る大雨による浸水や、川の水位が高くなり放流できず、マンホールや雨水ますなどから溢れておこる浸水。

洪水（外水はん濫）



川の堤防が壊れたり、堤防から水が溢れたりして発生する浸水。

過去の浸水被害

平成12年（2000年）9月11日に最大24時間降水量375.0mm、日降水量353.5mmと観測史上1位となる猛烈な大雨となり、床上浸水50棟、床下浸水859棟の被害が発生しました。平成12年（2000年）以降も浸水被害が発生しています。

近年の被害の様子

平成21年（2009年）11月11日前線による浸水被害

和歌山市で1時間雨量122.5mm
（1時間雨量観測史上1位）
友ヶ島で1時間雨量83.5mm
死者1名
床上浸水612棟
床下浸水1,768棟



山東郵便局周辺の様子

平成24年（2012年）6月22日
台風5号による浸水被害



和田川流域の様子



田中町南地下道（アンダーパス）の様子



前代川付近の様子



交通センターより北側周辺の様子

3. 大雨時の気象情報

雨が強くなると・・・

大雨が降り続くと・・・

さらに激しい大雨が続くと・・・

注意報

警報

特別警報

非常事態 ただちに命を守る行動をとる！

大雨・洪水注意報

災害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う予報。

平坦地
50mm以上 / 3時間

平坦地以外
40mm以上 / 時間

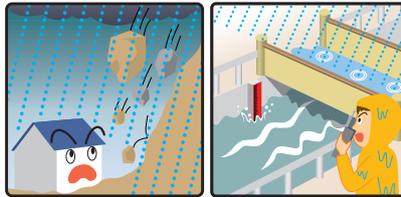


大雨・洪水警報

重大な災害の起こるおそれがある場合、その旨を警告して行う予報。

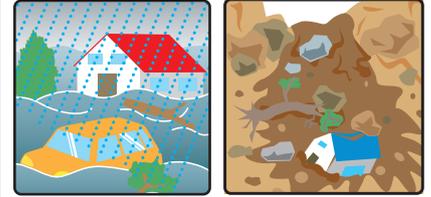
平坦地
80mm以上 / 3時間

平坦地以外
70mm以上 / 時間



大雨特別警報

重大な災害の起こるおそれが著しく大きい場合、その旨を警告して行う予報。



Point 1

最新の情報に注意して、災害に備えた早めの準備を！



- ・気象情報や外の様子に注意する。
- ・非常用持出品や避難所、避難経路を確認する。
- ・窓や雨戸など家の外を点検する。

Point 2

浸水する前に
早めの避難行動を！



市からの避難情報に注意し、避難情報が発令されたときは直ちに避難行動を行う。

Point 3

周囲の状況に応じた
行動を！



浸水の中の避難は
非常に危険

「家の位置や構造」、「既に浸水が発生しているのか」など周囲の状況に応じた行動を行う。

記録的短時間大雨情報 110mm / 時間

大雨・洪水警報発表中に、災害の発生につながるような雨量であることをお知らせするために発表されます。

記録的短時間大雨情報とは

基準は、1時間雨量歴代1位または2位の記録を参考に、概ね県予報区ごとに決めています。この情報は、大雨警報発表時に、現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることをお知らせするために発表されるもので、大雨を観測した観測点名や市町村等を明記しています。

4. 自ら避難情報を収集し、行動しましょう

避難行動の種類

避難行動には、「立ち退き避難」（水平避難）と「屋内安全確保」（垂直避難）があります。

「立ち退き避難」

自宅等から避難所や安全な場所へ移動する避難行動。



「屋内安全確保」

自宅等建物の上層階に留まり、安全を確保する避難行動。



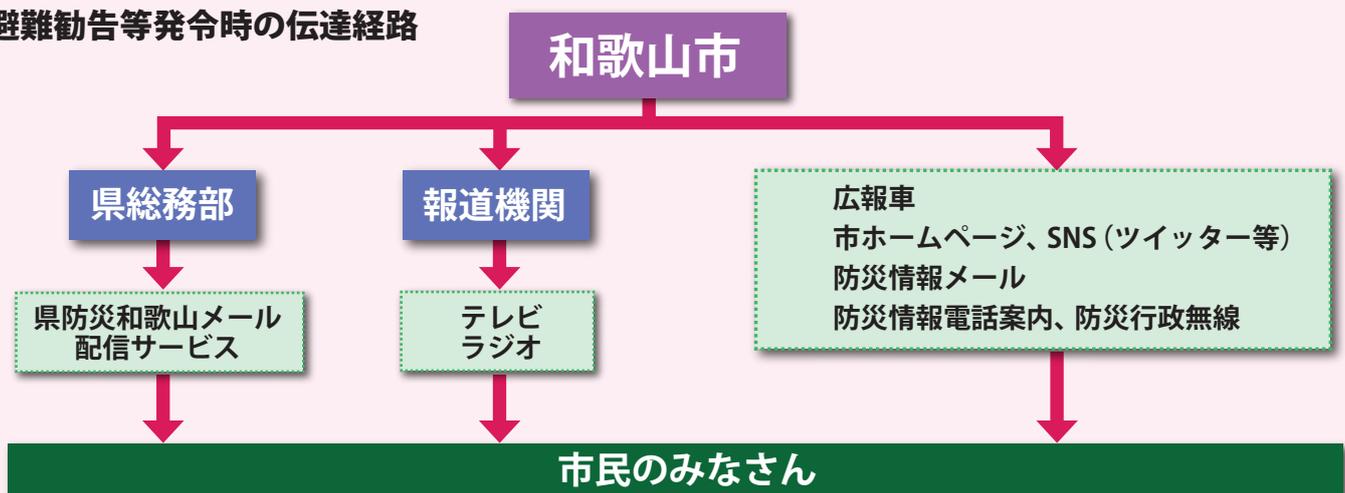
避難情報

市は、市民のみなさんに避難が必要と判断した場合、その緊急度に応じた避難情報を発令します。

避難情報の種類	発令時の状況	みなさんのとるべき行動
避難準備情報	避難行動に時間を要する者が、避難行動を開始しなければならない段階で、人的被害の発生する可能性が高まった状況である場合に避難準備情報を発令する。	要援護者※、特に避難行動に時間を要する者は、避難行動を開始する。(避難支援者は避難行動を開始) 上記以外の者は、家族等との連絡、非常用持出品の用意等、避難準備を開始する。
避難勧告	通常の避難行動ができる者が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まった場合に発令する。また、避難することにより、かえって危険が及ぶおそれがあると判断したときは、屋内での待避その他屋内における避難のための安全確保措置（建物の2階以上への垂直避難）について指示する。	通常の避難行動ができる者は、避難行動を開始する。 避難を行うことにより人の生命又は身体に危険が及ぶ場合には、自宅等建物内の上層階に留まり、安全を確保する。
避難指示	前兆現象の発生や、現在の切迫した状況から、河川、急傾斜地、堤防の隣接地等、地域の特性等から人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断される又は人的被害が発生した場合に発令する。また、避難することにより、かえって危険が及ぶおそれがあると判断したときは、屋内での待避その他屋内における避難のための安全確保措置（建物の2階以上への垂直避難）について指示する。	避難勧告等の発令後で避難中の住民は、確実な避難行動を直ちに完了する。 未だに避難していない対象住民は、直ちに避難行動に移る。 避難を行うことにより人の生命又は身体に危険が及ぶ場合には、自宅等建物内の上層階に留まり、安全を確保する。

- ※要援護者… ●要援護者とは、避難行動に必要な情報を迅速かつ的確に把握することが困難な方、災害から自らを守るための避難行動をとるのに手助けが必要な方（高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦等）。
- 特に避難行動に時間を要する方とは、要援護者のうち、災害が発生し、または災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難な方であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する方。

避難勧告等発令時の伝達経路



5. 避難時の心得

避難所等への避難は早めに！

避難所への避難は、できる限り単独行動はせず、2人以上で避難しましょう。

動きやすい服装で！

動きやすい服装で、必要最低限の荷物を持って避難しましょう。長靴では水が入ると動きにくくなるので運動靴で避難しましょう。



助け合って避難を！

高齢者や身体の不自由な方と一緒に避難するときは、背負ったり、ひじにつかまってもらったりして誘導しましょう。



避難に自動車を使わない！

道路が冠水するとエンジンがとまるおそれがあります。徒歩での避難を心がけましょう。



夜間の避難は危険！

やむを得ず夜間に避難しなければならなくなったときは、転倒や側溝への転落に十分注意しましょう。



避難時の危険箇所

注意すべき場所を日ごろから確認しておきましょう。

地下は危険です

半地下住宅では雨が降り始めたらすぐに上階へ避難するようにしましょう。地下は地上が冠水すると一気に水が流れ込んできますが、地下室では外の様子がわかりません。



マンホールや水路の周辺

道路冠水時には足元が見えないので、マンホールの蓋のズレによる落下や水路への落下に十分注意しましょう。



地下道や地下歩道

地下道や地下歩道は、浸水時には周辺から水が流れ込んで冠水するおそれがあるので立ち入らないようにしましょう。



がけ地

がけは、大雨が降ると崩れるおそれがあるため、大雨時に近づくのは危険です。また、がけの近くに住宅がある場合には、早めの避難を心がけましょう。



逃げ遅れたら

浸水が始まり、立ち退き避難が危険と感じた場合は、自宅や近くの建物の2階以上に避難し、水が引くのを待ちましょう。

また電話や懐中電灯などで居場所を知らせ、救助を待ちましょう。



6. 浸水被害から家屋や家財を守るには

水深が浅い段階では、ご家庭にあるものを使って、家屋への水の流入を防ぐことができます。玄関や通気口に浸水防止を行いましょう。

家屋を守る

土のう

出入りに土のうを使用し、浸水を防ぎます。



止水板

出入りに長めの板を使用し、浸水を防ぎます。

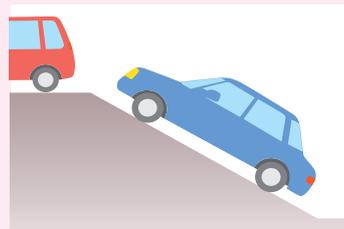


家財を守る

通帳・保険証・パスポートなどの重要な書類は、非常用持出品としてまとめ、安全な高い場所へ移動しておきましょう。



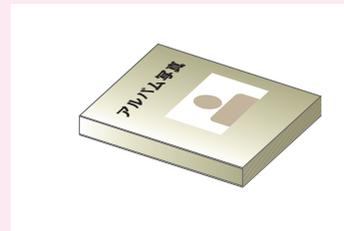
浸水は自動車の故障の原因となります。自家用車は早めに安全な場所へ移動しておきましょう。



水没すると使えなくなる電化製品などは、簡単に移動できるものから安全な高い場所へ移動しておきましょう。

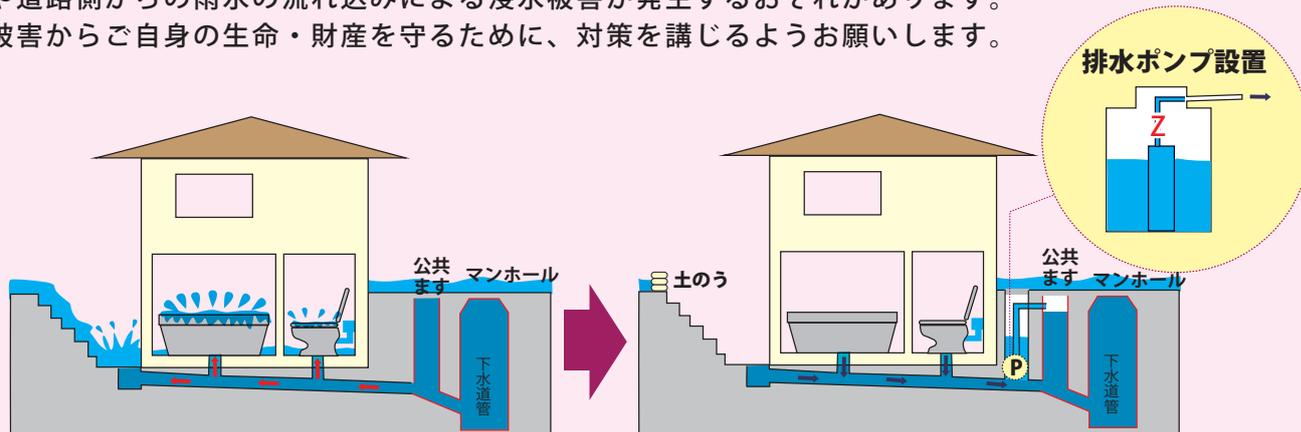


アルバムや写真などは、水につかると台無しになります。思い出のものは、安全な高いところへ移動しましょう。



半地下家屋や地下室では浸水被害に十分ご注意ください

- 台風や局所的な集中豪雨により半地下家屋や地下室での浸水被害が発生しています。
- 晴天時などでは、生活排水を問題なく排水できていても、豪雨時には下水道管からの逆流による浸水被害や道路側からの雨水の流れ込みによる浸水被害が発生するおそれがあります。
- 浸水被害からご自身の生命・財産を守るために、対策を講じるようお願いします。



7. 日頃から備えましょう

市では、災害対策の確立を図り、市民等の生命、身体及び財産を災害から守ることを目的とした、『和歌山市みんなできとりくむ災害対策基本条例』を平成25年3月に制定しました。

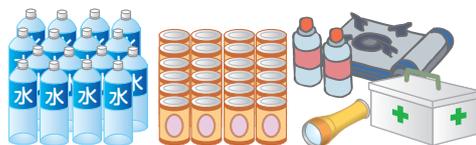


家庭でできること

非常用持出品 (すぐに持ち出せるもの)

まず、最初に持ち出すべきもの、避難バックにひとまとめに入る程度の量にし、すぐに持ち出せるように置き場所を決めておく。

- 現金
- 飲料水
- 非常食
(乾パン、缶切り不要の缶詰等)
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ、電池
- ビニール袋
- 安全器具
(ヘルメット・ライフジャケット等)
- 救急医療品
- 常備薬
- 衣類、タオル、ティッシュペーパー、軍手、雨具、ライター、マスク、生理用品など



備蓄品 (すぐに取り出せるように)

災害復旧までおよそ一週間を自足するためのもの。家屋が被災しても取り出せる場所に保管しておく。

- 備蓄食糧
- 備蓄用の水
- 毛布、寝袋
- 電池
- 万能ナイフ
- 卓上コンロ
- 工具類(バールなど)
- キッチン用ラップ
- 歯みがき、洗面用具
- ビニールシート、ポリ容器、新聞紙、ろうそく、布製のガムテープ、トイレトペーパーなど

地域でできること

災害発生時には、初期消火、避難誘導、救出・救護など、地域の皆さんが互いに協力し、防災活動を行うことが重要です。日頃から地域住民が一体となって継続的に防災活動を行うことが、「災害に強いまちづくり」への第一歩です。住民がつくる自主防災組織をはじめとする地域の防災活動に積極的に参加し、災害に備えましょう。

助け合いのころ



高齢者

- 足腰が弱っている場合があるため、手荷物などは一緒に持つようにします。
- 認知症の方の場合は、周囲の状況がわからないことがあるので、簡単な言葉でゆっくりと説明します。



肢体の不自由な方(車椅子)

- 通路に障害物がないか確認します。
- 上り坂は前向きに、下り坂は後ろ向きに移動します。



目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝えます。
- 誘導する場合は、杖を持った方の反対側に立ち、ひじの上あたりを軽くつかんでもらうか、肩に手をおいてもらい、斜め半歩前をゆっくり歩きます。



耳の不自由な方

- 話すときは、口をはっきり開け、相手にわかりやすいようにします。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝えます。

自主防災組織とは

『自分たちのまちは、自分たちで守る』という考えに基づき、災害による被害を予防し、軽減するための組織です。

自主防災組織の主な取組み

- 防災知識の普及
- 地域の災害危険の把握
- 防災訓練の実施
- 火気使用設備器具等の点検
- 防災用資機材の整備等

また災害時においては、情報の収集・伝達、出火防止・初期消火、住民の避難誘導、負傷者の救出・救護、給食・給水等の活動。



防災訓練、防災講座

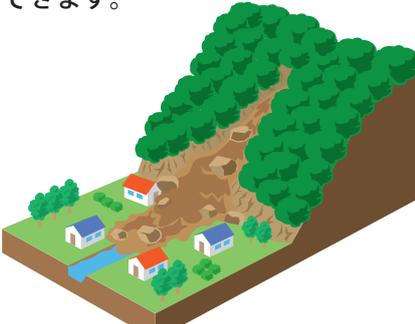
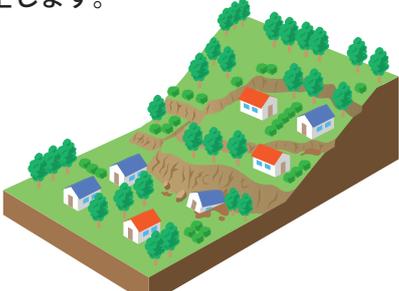
市では、自然災害を想定し、自主防災組織が大規模災害に円滑に対応するために、定期的に防災訓練、また防災知識を高めていただくために防災講座も実施しています。

8. 土砂災害のおそれがあるときは避難しましょう

大雨が降り続けると土砂災害が発生しやすくなります。土砂災害警戒情報や前兆現象に注意して、危険を感じたら早めに安全な場所へ避難しましょう。

■土砂災害警戒情報とは

大雨警報（土砂災害）が発表されている状況で、土砂災害発生危険度がさらに高まったときに、和歌山県と和歌山地方気象台によって共同で発表される情報です。

がけ崩れ	土石流	地すべり
<p>大雨や、地震等の影響で、急ながけ地や山の斜面が突然崩れ落ちてきます。</p> 	<p>溪流の沢筋や谷筋から水を含んだ大量の土砂や巨大な石が一気に流れてきます。</p> 	<p>斜面の一部がひび割れて、ズルズルとすべり落ちていきます。がけ崩れにも似ていますが緩い斜面でも発生します。</p> 
<h3>がけ崩れの前兆現象</h3> <div data-bbox="103 1086 335 1310">  <p>がけに亀裂が入ります。がけから小石が落ちます。</p> </div> <div data-bbox="103 1332 335 1556">  <p>普段澄んでいる湧き水が濁っています。</p> </div>	<h3>土石流の前兆現象</h3> <div data-bbox="582 1086 813 1310">  <p>川が急激に濁りだしたり、流木が混ざり始めます。</p> </div> <div data-bbox="582 1332 813 1556">  <p>雨が降り続けているのに川の水位が下がります。</p> </div>	<h3>地すべりの前兆現象</h3> <div data-bbox="1061 1086 1292 1310">  <p>斜面にひび割れができます。</p> </div> <div data-bbox="1061 1332 1292 1556">  <p>斜面から水が吹き出ます。</p> </div>

避難行動

土砂災害は命の危険を脅かすことが多い災害であり、避難勧告等の発令時には、危険な区域から一刻も早く立ち退き避難を行うことが必要です。また、夜間や大雨時など避難時の状況によっても、とるべき行動が変わってくると考えられます。時間的余裕がある場合は、あらかじめ定めた避難場所に速やかに避難しましょう。

時間的に余裕のない場合には

- 近隣の堅牢な建物（鉄筋コンクリート造等）の高層階に移動しましょう。
- 自宅の斜面と反対側の2階以上の部屋等に移動しましょう。

